



課長補佐



●平成29年入庁  
 国税庁査察課、財務省主税局税制第一課通則法規第一係長、留学(コロンビア大学)、財務省国際局地域協力課補佐などを経て令和7年から現職。

国税庁 課税部  
 酒類業振興・輸出促進室 課長補佐

日本を国際舞台で支える

杉浦 成彦

日本の酒文化を世界へつなぐ仕事

長い歴史の中で地域の風土とともに育まれてきた日本産酒類は、今世界から高い評価を受けています。2024年12月には「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録され、その価値が国際的にも認められました。私は、こうした日本の誇る酒類を海外へと展開していくため、国際交渉を通じた基盤作りを担っています。輸入関税や規制の撤廃、地理的表示(GI)の相互保護等に向けて、経済連携協定での交渉や国際会議の場を通じて諸外国と協議を進めています。



マレーシア保健省とのバイ会議の様子

国税庁・出向先で磨いた強みで日本を支える

国税庁の業務は、税の賦課・徴収にとどまらず、酒類業の健全な発達を支援する産業行政や国際的なルール形成に関わる分野まで幅広く展開されています。様々な部署で専門性を磨きながら多様な業務に挑戦できる環境があり、これまでの経験や強みを活かしたミッションに携われることに、国税庁で働く大きな魅力を感じています。

これまで国税庁以外に、財務省主税局での納税環境整備関係の税制改正や、国際局でのアジア太平洋地域向け災害保険制度の構築等、国内外の課題解決に携わってきました。そこで培った視点や交渉力は、現職での国際協議の現場や制度設計の業務でも活かされています。今後は国税における諸課題に対しあらゆる切り口から解決策を検討し、具体的に政策として形にすることで、国税組織の一員として貢献していきたいと思っています。「国の経済を支えたい」、そんな志を持つ皆さんと仕事できる日をお待ちしています。



課長補佐



●平成24年入庁  
 留学(ロンドン大学)、東京国税局国際調査課長、延岡税務署長、国税庁課税総括課補佐などを経て令和7年から現職。

国税庁長官官房 企画課  
 デジタル化・業務改革室  
 課長補佐(総括)

よりよい税務行政のために  
 —DXが可能にする税の  
 未来をデザインする—

小沢 百々子

DX室の仕事

国税の仕事に生成AIをどのように生かせるか。今の部署に来てから考え続けている課題です。

デジタル化・業務改革室(DX室)は納税者が利用しやすいデジタル環境を整備するための司令塔の役割を担っています。たとえば、e-TaxのUX向上や、マイナポータルとe-Taxの連携推進によって、確定申告をはじめとする税務手続きをより簡便に、かつネット上で完結させる、というビジョンに向かって、様々な省庁やベンダーと協力しながら必要な制度改正やシステム開発の検討などを行っています。



最先端の課題に取り組む

国税というと、大量の紙書類を扱っているイメージがあるかもしれませんが、実は電子化やデジタル化に先陣を切って取り組んできた歴史があります(e-Taxの運用開始はなんと平成16年、今から二十年以上前です)。そして現在のホットトピックが、生成AIです。生成AIの発展は目覚ましく、政府全体でその活用が推奨される中、国税庁では生成AIにより納税者サービスの向上や組織内の事務処理の効率化・高度化が図れないか、といった検討を進めています。これらの具体的内容を詰めて実現可能なロードマップを示していくことも、DX室の役割です。

生成AIに限らず、国の機関である私たちが新しい課題に取り組む際は、現場の意見・技術面の課題・リスク管理・予算配分など多方面からの検討、そして何より国民の理解が得られる取組であるか、が重要になります。冒頭の件について、ぜひ皆さんも自由な発想で考えてみてほしいと思います。よりよい税務行政を目指して一緒に課題解決に取り組めるのを楽しみにしています。

